

「住田航空奨励賞」受賞作決定

第3回「住田航空奨励賞」の受賞作は、選考委員会における審査の結果、下記のとおり決定されました。

記

受賞作

「航空グローバル化と空港ビジネス」

野村宗訓（のむら むねのり）
（関西学院大学経済学部教授）

[著]

切通堅太郎（きりとおし けんたろう）
（社団法人北海道総合研究調査会 調査部研究員）

2010年7月28日 発行(同文館出版株式会社)

受賞理由

本書は、大きな変革期にある内外の航空マーケット及び空港マーケットについて、英国など諸外国の事例などにも立脚しながら、ローコストキャリア（LCC）の成長、JALの経営破綻、大都市圏における複数空港の経営問題、地方空港の運営の問題点など、代表的な主要政策課題に関する最新の状況について、内外の多くの資料、知見等に基づき、相当網羅的に状況の説明を行い、一部の課題については、その解決の方向性等にも触れることなどを通じ、転換点を迎えている航空政策が今後目指すべき将来の政策と戦略について、その主要部分に関する分析を試みたものである。

この研究においては、我が国がオープンスカイ構想の推進や観光立国による経済活性化等を柱とする経済成長戦略を実施する状況にある中で、我が国航空政策上、重要度の高い主要な分野について、関連する諸外国の情報を、丹念な資料調査等に基づいて、経緯、現状等の説明を行い、それに対応すると想定される我が国の課題についても、状況説明と今後の方向について議論を行っている。具体的には、友人・親族への訪問（VFR）需要を支える英国のセカンダリー空港におけるLCC専用ターミナルの整備等の状況と我が国でのLCC及びそれによる観光需要等への期待の高まり、アライアンスの進化・

LCCの世界的な躍進とJALの経営破綻後のエアライン・ビジネスのあり方に関する問題、英国のBAA保有の一部空港の売却等の状況と東京・大阪の大都市圏における複数空港の問題が例として挙げられる。

こうした研究は、個々の課題分析についてはそれぞれに進化させる余地があるものの、我が国の航空政策において具体の考察や分析を進めるにあたり、参考となるべき点が多く、航空分野の公共政策に大きく寄与する点があると考えられる。また、個別の論文等に基づき論説を進めている点も多く、入門書、概説書という範疇を超えて分析を試みているものと認められる。

このような理由から、本書は、今後、更なる研究の発展を奨励すべき内容を備えていると考え、受賞に値するものとして評価したものである。

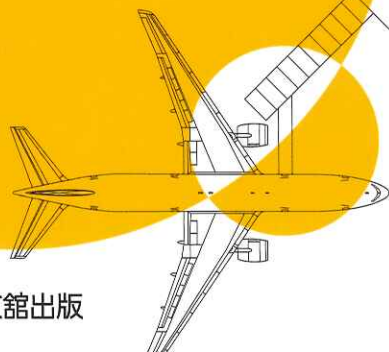
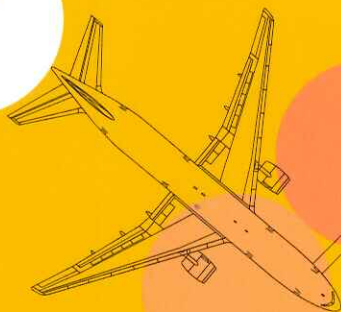
(参考)

募集開始日	平成22年	6月15日
募集締切日	平成22年	8月31日
受賞作発表日	平成22年	10月19日

航空グローバル化と 空港ビジネス

LCC時代の
政策と戦略

野村 宗訓 [著]
切通 堅太郎



同文館出版